

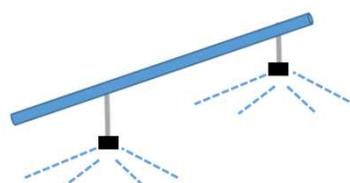
# 淡路に適したストックの省力灌水技術

## 【背景・目的・成果】

淡路島のストック生産の慣行では、栽植密度を高めた上で手灌水しています。その時間割合は全作業の14%を占め、規模拡大の障害となっています。そこで、灌水装置を適切に設置することで、手灌水と同等の切り花品質を確保できる省力灌水技術を開発しました。

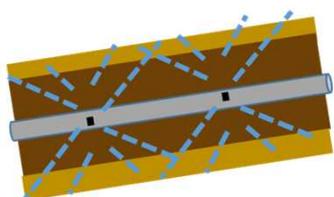
### 灌水装置のタイプ

#### スプリンクラー(頭上)



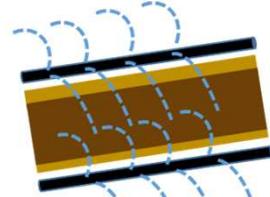
散水直径8mのスプリンクラーを高さ180cm、3m間隔に設置

#### 散水パイプ(敷設)



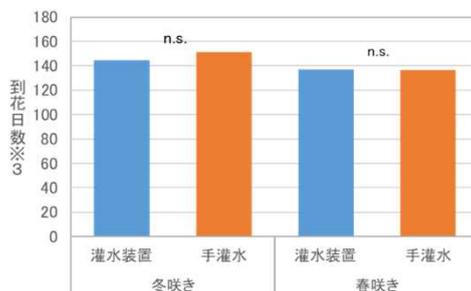
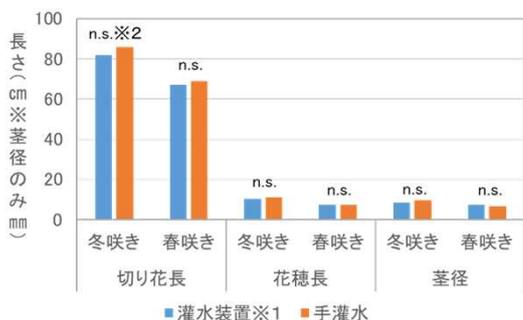
120° 散水ノズルを30cm間隔に付けたパイプを畝中央に敷設

#### 散水チューブ(敷設)



散水孔間隔25mm、散水幅1.2~2.8mの散水チューブを畝間に敷設

上記の灌水装置で、開花期が前後することなく、手灌水と同等品質の切り花をつくることができ、作業時間を大幅に短縮することができます。



V.S.

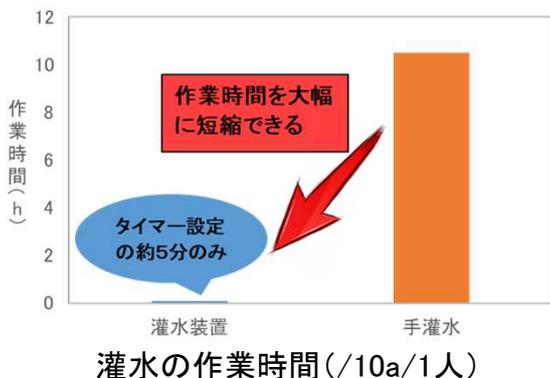
#### 手灌水



### 到花日数に及ぼす影響

灌水方法の違いが切り花品質に及ぼす影響  
品種:「ホワイトアイアン」

※1: 灌水装置は散水パイプ ※2: n.s.=not significant (有意差なし)  
※3: 播種から開花までの日数



灌水装置はハウス(※4)あたり、スプリンクラーは約8万円、散水パイプは約6万円、散水チューブは約5万円で各々導入可能です(ハウス内資材費のみ)。現地では片付ける手間が少ないスプリンクラーを用いた頭上灌水が普及しています。

※4: 間口6m×長さ50m



【技術の活用】栽培環境や作型に合わせ、適した灌水装置を選び、手灌水から自動灌水へ転換することで、慣行と同等の切り花品質を確保しつつ、作業の省力化を図ることができます。

